

【広報室方針】

室長 伊藤 崇

名古屋青年会議所は、会員一人ひとりが意識変革運動を行い、当事者意識漲る会員が市民を巻き込み名古屋の未来を創造する団体である。しかし、内外への情報の伝達不足や社会の一部に存在するネガティブキャンペーンにより、会員は自信と当事者意識を持って運動に取り組むことができず、運動参画を通じ市民の意識を変革することが十分にできていない。そこで、名古屋青年会議所の内外に我々の活動や会員の魅力を発信する必要がある。

まずは、会員が活動を理解するとともに会員自身に当事者意識と連帯意識を喚起させるために、会員が活動に邁進する姿を余すところなく捉え、会員全員に情報を発信する。そして、名古屋青年会議所の認知向上を図り市民の一層の運動参画を実現するとともに、会員が自信と誇りを持つために、我々の活動を様々な情報媒体を用いて効果的かつ継続的に市民に発信する。さらに、市民が名古屋青年会議所の活動内容の実際を認知するために、多様なマスメディアとの交流を深め、より効果的な広報活動を検討し実施するとともに、将来に引き継ぐことのできる継続性と互惠性を有したマスメディアとの関係を構築する。また、会員が胸を張って運動に一層邁進し、我々の活動を日本及び世界に向けて発信するために、運動の魅力と成果を検証し褒賞を獲得する。そして、例会・事業の広報を市民の参加意欲を掻き立てる内容とするために、全力で支援する。さらに、当事者意識とプライドを会員に今一度喚起させるために、第65年度の運動を振り返りその成果を会員間で称える例会を開催する。また、第65年度の運動を次代につなげるために、会報を作成する。

当事者意識と独立自尊の精神を漲らせた会員一人ひとりが問題解決に向けて一心不乱に突き進む気概と覚悟を持ち、市民と団結して、誰一人として他人任せにすることなく果敢に一步前に踏み出し続け、情熱とプライドを持って、「日本を支える名古屋」を実現する。

広報委員会方針

委員長 長谷川 正樹

名古屋青年会議所は明るい豊かな社会を築き上げるために運動をしているが、対内広報が十分行き届いておらず、会員全員が当事者意識を持って名古屋青年会議所の行う運動に携われているとは言えない。そこで、会員一人ひとりに運動へ能動的に参加する情熱を喚起させる広報活動を展開し、誇りを持って市民から頼られる組織として、名古屋を巻き込む青年会議所運動を発信して市民とともに名古屋の未来を創造していくことが必要である。

まずは、会員一人ひとりの当事者意識を喚起させるとともに、市民に名古屋青年会議所の運動を広め参画へつなげるために、対内外広報活動を行う。そして、名古屋青年会議所の運動を継続的に発信するために、広報誌を発行し会員や市民の手に取ってもらうことで、青年会議所運動を名古屋のまちへ伝播させ、運動内容を周知させる。さらに、会員と市民の運動への理解と認知を深め一致団結した運動展開を実現するために、事業・例会の様子を盛り込むホームページの提供で事前PRに注力するとともに、運動の結果を記載した事業報告まで力を入れた最新情報を配信する。また、会員に本年度の運動の方向性を浸透させるために、ポケット名簿を作成する。そして、青年会議所の運動を次代へつなげていくために、第65年度の活動を振り返る会報を作成する。さらに、事業・例会に対する広報活動を市民の動員へとつなげるために、社会全体への認知度を高め市民の参加意欲を掻き立てる運動展開となるように議案審査会議にて広報面から支援する。また、JCI及び日本青年会議所の褒賞を獲得するために、会員に褒賞獲得の意義を伝え意識の統一を図る。

名古屋青年会議所が64年間連綿と受け継いできた青年会議所運動の力強い推進を目指して、会員そして市民が一致団結し、相互に運動の意義を理解できる広報活動を展開し、市民から頼られる存在として名古屋プライドを持って「日本を支える名古屋」を実現する。

JCI運動発信委員会方針

委員長 林 絵梨子

名古屋青年会議所は、笑顔溢れる明るい豊かな社会の実現を目指し、会員一人ひとりが率先して市民意識変革運動を行う団体である。しかし、会員自身が社会の一部に存在するネガティブキャンペーンを論破することや当事者意識と自信を持って運動の内容を市民に伝えることが十分にできていない。そこで、運動の意義・目的を市民へ分かりやすく発

信し、会員と市民が同じ目標に向かって、ともに誇れるまち名古屋の未来を描く必要がある。

まずは、青年会議所をより多くの市民に知っていただき、ともに運動を実行し市民意識の変革を行うために、時代に即した効果的なPRツールやメディアを検討し、広報活動を実施する。そして、青年会議所の認知度を高めるだけでなく、我々の運動に一人でも多くの市民に参画していただくために、集客とメディアへの露出につながるPRツールとして、例会や事業の効果的な情報提供をプレスリリースで実施する。さらに、例会や事業に関わるPRツールを名古屋青年会議所のブランディングと、集客につながる内容にするために、議案審査会議で広報媒体全体のデザインや色彩における視覚効果の運動性や統一性を持たせるとともに、配布先の選定についても全力で支援する。また、実施された素晴らしい事業を日本全国さらには世界中の会員へ発信するために、市民やまちに与えた効果を客観的に検証し、JCI及び日本青年会議所の各種褒賞を獲得する。そして、運動を振り返り成果を会員全員で共有し称え合うとともに、運動への志気を高め活性化するために、互いの絆を深め未来につながる大きな一歩を踏み出すことができる12月例会を開催する。

会員と市民が、運動の意義・目的をしっかりと理解し、他人任せにするのではなく気概と覚悟を持って同じ目標に向かい力強く歩き出し、ともに手を取り合って笑顔溢れるまち名古屋の未来を創造し、滾る情熱とプライドを持って「日本を支える名古屋」を実現する。

【渉外室方針】

室長 森 正志

名古屋青年会議所は、当事者意識を喚起する運動を市民に展開するとともに、会員の資質向上に取り組む団体である。そのために、会員は自身が目指すべき理想像を明確にし、運動に邁進して、市民意識変革を行っていかねばならない。そこで、労を惜しまず名古屋のために行動し日本を支える名古屋を体現する人を理想像とし、会員一人ひとりの自信と誇りを覚醒させ、国際的な観点を持つ人材として成長する機会を提供する必要がある。

まずは、会員一人ひとりが当事者意識を持ち多くの学びや成長の機会に触れるために、品格ある渉外活動により名古屋の存在感を現し、日本青年会議所や各地会員会議所から情報を集約し、諸大会の運動の意義・目的を明確に伝え会員が積極的に参画することを促す。そして、名古屋青年会議所の代表である出向者に対し積極的な活動を促し、さらなる会員の資質向上につなげるために、出向者を煌々と光輝かせ会員の積極的な参画を通し出向者に対して心のこもった支援をする。さらに、国際交流を積極的に推進し、国際的な文化を肌で感じ人とのつながりを構築するために、市民が他国の人と互いに文化を理解する事業を実施し、会員に姉妹JCIとの交流の機会やJCI諸会議・諸大会へ参加を促すことによって国際組織に属することの認識につなげる。また、市民が他国の文化や歴史を学びグローバルな視点を持ち世界に向け飛躍するために、自身が名古屋や日本に必要な存在であることに気づき、大きな視野を持ち自身が世界の中で生かされていることに感謝し、他国の人と新たな出会いを通して自身の人生に自信と誇りを育む事業とフォーラムを実施する。

会員一人ひとりの当事者意識が漲り、自らが未来のリーダーとして、国際的な感覚と自信と誇りという名古屋プライドで市民意識変革を行う名古屋青年会議所と、自らが一歩を踏み出し社会が変わると自覚した市民が一致団結し、「日本を支える名古屋」を実現する。

渉外委員会方針

委員長 浅野 弘義

我々は人やまちのために名古屋が抱える課題に対して市民意識を変革させる運動を能動的に展開するとともに、会員同士が人間力を高め合う組織である。しかし、会員すべてが組織の意義・目的を理解し自分たちの使命を考え、同じベクトルのもと青年会議所運動を行っているとは言えない。そこで、我々はそれぞれに修練を積み重ね、自らの意志で目標に向かって意識を一つにした運動を展開できる人材を生み出す機会を提供する必要がある。

まずは、名古屋青年会議所の会員が足並み揃えて市民に対して実行力ある運動を展開するために、日本青年会議所を始めとする各地会員会議所から情報を集約し、効果的かつ円滑で品格ある渉外活動を行う。そして、会員一人ひとりが当事者意識を持ち多くの学びや気づきを得るために、諸大会の運動の意義・目的を明確に伝え多くの会員に積極的な参画を促す。さらに、各地を訪問する際、名古屋青年会議所としてのブランドを保ちながら効率的な活動を行うために、各地会員会議所と密に情報交換を図り事前調査を行い綿密な計画を作成し行動する。また、出向者が活動意欲を高めリーダーシップを発揮しそれぞれのステージにて光輝く能動的な人材になっていただくために、彼らの活動を応援する会

員を一人でも多く募りそれぞれに焦点を当てた支援を行い、名古屋青年会議所の代表であることの再認識と今後の責任感ある行動につなげていただく。そして、名古屋青年会議所をより強力な組織へと進化させるために、会員が出向者の委員会の意義・目的や活動を知る機会を作るとともに、出向先で学んだことを会員と共有しお互いの成長につなげていただく。

すべての会員が同じ想いを抱き当事者意識を漲らせ、品格と力強さを兼ね備えた責任感溢れるリーダーシップを発揮する実行力ある組織が、自信と誇りという名古屋プライドで市民の意識を変革させる運動を未来へと次々に展開し「日本を支える名古屋」を実現する。

国際交流推進委員会方針

委員長 田中 祐治

活気溢れるまち名古屋の実現に向け市民は国際化の流れに対応できる柔軟な発想とより広い視野で物事を考える国際感覚を身に付けなければならない。また、情報技術の進歩により海外の人と意思疎通することは容易になってきているが、互いの心の距離を縮めるには顔を合わせての交流を疎かにしてはならない。そこで、名古屋のまちの発展に向け柔軟な発想と国際感覚豊かな考えを兼ね備え、能動的に行動できる人材を育成する必要がある。

まずは、未来を担う若者たちが日本の文化や価値観を再認識し、国際感覚を養い能動的に行動できる人材となるために、国際交流に興味を持っている若者に海外研修を通じて異なる文化や価値観に触れることができる機会を提供する。そして、より多くの市民が国際化に柔軟に対応していかなければならないことへの理解を深め、自主的にまちの発展に向けて行動できる人材へと成長するために、海外研修へ行った若者が自身の体験を通じて得た学びを市民へと伝える事業を実施する。さらに、名古屋青年会議所と姉妹J Cの会員同士が互いの国についての理解と友情を深め、互いに地域の活性化に向け能動的に行動できる人材となるために、姉妹J Cの会員と積極的に情報交換をする機会を増やすことで今後より強い絆を深められるように交流を図っていく。また、会員に対して世界規模の組織に所属していることを体感し、国際的な視野を持つ契機とするために、例会や委員会の場で積極的なPRをすることでJ C I 諸会議・諸大会への参加を促す。そして、我々を代表する出向者が世界で活躍できるように、会員の積極的な参画による心のこもった支援を行う。

会員と市民が名古屋のまちの発展に向けて臨機応変に対応できる柔軟な発想と日本と他国との文化や価値観の違いを世の中へ発信できる国際感覚豊かな考えを身に付け、他国の人との交流において能動的に行動できる人材で溢れる「日本を支える名古屋」を実現する。

グローバルな視点を持つ名古屋確立委員会方針

委員長 大井 貴正

グローバル化と通信技術の進歩で海外の情報を瞬時に得られても、海外に行き自ら体感することは人を成長させる機会となる。しかし、近年海外へ踏み出す若者が減少し他国の文化を体感することで得られる成長の機会を失いつつある。そこで、会員や市民が自ら世界へ一歩を踏み出し、世界を身近なものと感じられるグローバルな視点を持ち、己やまちを客観的に捉え自身の成長やまちのさらなる発展に貢献できる人材を育成する必要がある。

まずは、会員や市民が国際感覚豊かになり自身やまちを客観的に捉えられる幅広い視野を持つために、海外の文化やまちに興味を持ち、世界へ一歩踏み出す気持ちを醸成する。そして、会員や市民が他国を体感し、文化を尊重し幅広い視野を持つことで自身の成長やまちの発展につながることを知るために、世界で活躍し幅広い視野を持った人物の体験を聴く機会を提供するためのフォーラムを開催する。さらに、我々が他国の人々を新たな仲間として受け入れ友情を育み互いを高め継続した関係を築くために、青年会議所の持つ世界規模のネットワークを最大限に活用し、新たな海外J Cとの姉妹J C関係を確立する。また、我々がグローバルな視点を持ち名古屋をより活気溢れるまちに進化させる使命感を持った人材となるために、他国の人と互いの国やまちの文化や歴史について学び、未来を語り合うことのできる機会を提供する。そして、会員や市民が世界の様々な文化を尊重しグローバルな視点を持つ人材となり自身の成長やまちの発展につなげるために、他国の文化や伝統を体験し他国の人やまちの魅力を伝え、世界を身近に感じさせる事業を開催する。

世界へ一歩踏み出してグローバルな視点を持った会員と市民が、海外での経験を自身の志に換えて、世界の仲間とともにまちの未来を語り合い、自信と誇りを胸にまちの発展に貢献することのできる当事者意識を漲らせた人が溢れ「日本を支える名古屋」を実現する。

【歴史観構築室方針】

室長 田中 良知

日本は先達から受け継がれた悠久の歴史を持ち、世界に誇れる精神性を持ち合わせていたが、敗戦後GHQによる統治政策により過去の歴史が断絶され、自国の歴史認識や「公」を大切にする価値観が薄れ、自国への自信と誇りが持たなくなった。我々責任世代は、先達によって作り上げられた悠久の歴史と、歴史によって培われた精神性を見つめ直し、未来に向けた自国の立ち位置を認識することで、自国に自信と誇りを取り戻す必要がある。

まずは、国民が自国に対して自信と誇りを取り戻すために、我々が「記紀」を中心に読み解き、学ぶべき建国の神話や自国の歴史を研究し、悠久の歴史に受け継がれた行動規範や精神性を分析し、未来の日本人のあり方を発信する例会を開催する。そして、若い世代が悠久の歴史によって培われてきた日本人のアイデンティティに興味を持ち、この国の成り立ちを知る機会を創出するために、例会で研究した建国の神話をさらに分かりやすい形に集約し、日本人の精神性を発信する事業を実施する。さらに、日本人固有の精神性を再認識し未来につなげるために、日米和親条約以降の近現代史を有識者や書物から研究し、先達がどのような歴史観と世界観を持って、日本と世界の行く末を想い、近現代を駆け抜けてきたかを再考することで、日本人の新たな歴史認識を発信する例会を開催する。また、隣国にもかかわらず異なった歴史認識を持つ北東アジアの人々が、恒久的世界平和の実現に向け友好関係を築くために、膝を突き合わせ議論し、公正な視点でお互いの立場を理解し、それぞれの背景や経緯を探求し、未来に向けた共通の目標を見出す事業を実施する。

先達から引き継がれてきた日本を誇れる歴史観と道徳心を兼ね備え、自国に自信と誇りを感じた市民が、名古屋青年会議所会員とともに先達への感謝を起点に未来に向かって挑戦し「名古屋プライド」を覚醒させ知行合一の姿勢で「日本を支える名古屋」を実現する。

悠久の大義研究委員会方針

委員長 陣田 裕司

日本人は、建国以来「和を以て貴しとなす」とあるように、主体性を堅持しつつ、他者と協調する和を大切にすることで精神性を形成し後世へ受け継いできた。しかし、敗戦後GHQ主導の占領統治下での言論統制やこれに端を発する偏向教育によって日本人の精神性は捻じ曲げられてしまった。そこで、建国の神話や悠久の歴史を学び、日本人の精神性の成り立ちやその大切さを知ることを通じて日本人として進むべき道を明らかにする必要がある。

まずは、建国の神話や日本人の精神性がどのような過程を通じて形成され、受け継がれてきたのかを明らかにするために、手がかりとなる「記紀」を中心に調査研究する。そして、日本人が本来どのような誇るべき精神性を有していたのかを明らかにするために、敗戦の前後を通じて日本人の姿を比較研究し発表する。さらに、日本人らしさが失われている現代の問題点を踏まえた上で、我々が進むべき道を明らかにするために、次代へ受け継ぐべき悠久の歴史に裏付けられた日本人の精神性を市民に対して発信する例会を開催する。また、市民がどの程度日本の建国の神話や悠久の歴史の内容を知っているのかを委員会として把握するために、市民を対象として調査研究を行う。そして、それらの結果を踏まえ日本人としてのアイデンティティのルーツを理解するために、悠久の歴史の中で育まれた日本人の精神性を学ぶことができるツールを作成する。さらに、確固たる歴史観に裏付けられた日本人としての自信と誇りを取り戻し、先達が大切にしてきた和を重んじる精神を後世へと受け継いでいくために、日本人としての自信と誇りを得られる事業を開催する。

市民一人ひとりが、建国以来の歴史を通じて先達から受け継いできた悠久の大義を知り、自国に自信と誇りを取り戻し「名古屋プライド」を覚醒させ、主体的に行動する市民一人ひとりの小さな一歩が、やがて大きなうねりとなり「日本を支える名古屋」を実現する。

近現代史検証委員会方針

委員長 前田 義浩

我々日本人は、日米和親条約締結以降、帝国主義の時代にあっても先達より受け継いできた利他の精神を失わず、列強国による植民地政策からアジア諸国を解放して発展させてきた。しかし、日本人はGHQの戦後政策により日本が侵略戦争を引き起こしたという自虐史観を植え付けられ、自国に対しての自信と誇りが失いつつある。今こそ近現代史を

検証し、正しい歴史観を確立することで、誇りを取り戻し、それを次代に伝える使命がある。

まずは、歴史上の事実と真実を直視し、自信を持って論陣を張れる歴史認識を会員間で共有するために、自らの足で有識者や戦争を経験した我々の祖父母世代並びに現代の歴史教育を受けている学生を訪ね調査し、それぞれどのような歴史認識を持っているのかをヒアリングする。そして、義務教育過程で触れることが少ない我が国の素晴らしい先達の偉業を理解するために、正しい歴史認識の確立と戦後70年という節目を迎え、未来に受け継ぐべき歴史認識を共有することをテーマにした例会を開催する。さらに、例会開催後の検証と、さらなる運動の伝播を図るために、関係各所への提言や、公式ホームページでの戦後70年特設ページを作成し、委員会内での調査・検証結果を発信する。また、異なった歴史認識を持つ北東アジア諸国と友好な関係を構築していくために、日本に住まう留学生などの外国人と膝を突き合わせて議論することで、お互いの歴史教育で未だ理解されていない歴史の真実を解き明かし、日米和親条約締結から大東亜戦争までの歴史的背景と戦争に至った理由、それぞれの平和と発展に向けて相互理解の発想を発信する事業を実施する。

歴史の事実と真実に向き合い、確かな歴史認識を持ち合わせた、名古屋市民が名古屋青年会議所会員とともに先達への感謝の心を持ち、日本人としての自信と誇りを取り戻し未来への挑戦を継続し、「名古屋プライド」を覚醒させ「日本を支える名古屋」を実現する。

【教育推進室方針】

室長 岩田 一成

かつてより我々は、日々の生活において地域ぐるみで子供を育んできたが、近年、地域のつながりが希薄化した結果、人との関わりが減少し、子供に対し学び成長する意義と喜びを十分に伝えきれずにいる。また、都市化が進展し自然との触れ合いが少なくなり自然からの学びも減少している。責任世代として子供が住む地域での教育のあり方を考えるとともに市民とともに名古屋から未来に向けた子供への教育の可能性を切り拓く使命がある。

まずは、失われつつある地域の絆を再興するために、地域のたからである子供の未来を考え、地域全体で教育に取り組むことの重要性を発信し、地域による教育を推進する。そして、地域と学校との関係を再構築して、地域住民が学校とともに子供たちの豊かな成長を支え、子供たちに学ぶことの意義や喜びを伝えるために、地域全体で作らねばならない学校のあり方を研究し、地域と学校のあるべき関係を市民に対し発信するフォーラムを開催する。さらに、子供たちに対して日本人がかつてより育んできた「思いやり」や「感謝する気持ち」を兼ね備え、道徳心を合わせ持つ重要性を伝えるために、親世代だけでなく、地域に住まうすべての大人たちと一体感を持ち、小学校やトワイライトスクールにおいて責任世代の青年経済人である青年会議所会員による体験型事業を開催し、子供の「徳」を高める。そして、子供たちが自然の雄大さを感じ、知的好奇心を刺激するために、大都市に住まう子供に対し失われつつある自然を体験できる機会を提供し、名古屋に今もなお残る歴史と自然が織りなす四季の恵を体験できる、自然体験の必要性を発信する事業を実施する。

地域住民と名古屋青年会議所全会員が、地域のあり方を見つめ直し、先達から受け継がれてきた本来の教育のあり方を取り戻し、地域の絆と自然によって子供を育める未来に向けた社会のあり方をともに探求し、知行合一の姿勢で「日本を支える名古屋」を実現する。

自然体験推進委員会方針

委員長 川出 明

かつてより我々は、日常生活の中で自然と触れ合いながら豊かな生活を送るための知恵を育んできたが、現代社会では急速な都市化や情報化により便利で快適な生活が可能となった半面、子供たちが自然と触れ合って感性を磨く機会が減少している。我々責任世代には、子供たちが本来持つ能力を最大限に引き出せる自然という舞台で知的好奇心を刺激し、創造力や行動力、生きる喜びを育み、自然体験学習の素晴らしさを認識する必要がある。

まずは、我々JAYCEEが自然体験を推進して知恵を育んでいる環境を知り、事業に活かすために、野外教育を行っている有識者を訪ね、調査・研究をする。そして、大人たちが都市化した現代社会の中で、知恵を育む最適な方法である自然体験学習の素晴らしさを再認識するために、子供の日常では体験することが少なくなった、四季折々の自然と触れ合う機会を子供たちに提供することで、知的好奇心を刺激し、新たな発見の中で自ら学び、創造し、行動する能力を育む体験型の事業を開催する。さらに、世代を超えて自然環境の大切さを認識し、自然を通して実感することができる事実を見出すために、有識者を交えて古くから地域に残る自然を訪ね、日々の暮らしの中でも自然環境や生態系が相

互に影響を及ぼし合って生かされていることを理解し、親子間で学びを得ることができる機会を創出する。また、大人たちが子供の自然体験学習の成果を確信するために、子供たちが古くから日本に伝わる稲作の歴史を学び、田植えから収穫までを実体験して、達成感や先達と自然の恵みへの感謝の気持ちを養い、その成果を大人たちと共有する機会を創出する。

自然体験を通じて知的好奇心が生まれ、生きる喜びを見出した子供たちが、日常の中で創造力や行動力を発揮し、自然体験学習の素晴らしさを認識した大人と「名古屋プライド」が覚醒した社会で市民とJAYCEEが一体となり「日本を支える名古屋」を実現する。

地域教育推進委員会方針

委員長 相川 悟郎

我々の住まう地域では、自治会や子供会などの団体が活動しているが、子供たちの教育に対する地域住民の当事者意識は薄れ、地域ぐるみで協働して子供たちを育む機能が低下している。我々責任世代には、各種団体や地域に住み暮らす人々を巻き込み、先達より受け継いできた教育を再認識した上で、子供たちが自ら学び、考え、問題を解決する力を養い、思いやる心や感謝する心を育む運動を推進し、地域住民の意識変革を行う使命がある。

まずは、地域住民が子供たちの教育に当事者意識を持つために、地域の中の各種団体を交えて、主体的に子供たちの教育を考える機会を設け、調査・研究を進める。そして、地域ぐるみで子供たちが社会に出てから生き抜く力を育む意識を持つために、我々責任世代が、各種団体と地域に住み暮らす人々とともに、子供たちが率先して自ら課題を見つけ、学び、考えることのできる地域教育を推進する事業を行う。さらに、地域全体で子供たちの思いやる心や感謝する心を育むよう意識変革を促すために、子供たちが多くの人々によって支えられ、多くのつながりの中で自分が存在し、生かされていることへの感謝の心を持つ重要性を伝える。また、地域社会と学校がそれぞれの立場から子供の教育に関わることが、子供の成長や人間性の涵養において重要であることを地域住民に広く知ってもらうために、地域社会が家庭・学校と協働しながら子供たちの教育に取り組んできた成功事例を検証の題材としながら、学校と地域住民がともに手を取り合って子供たちの豊かな成長へとつながるような地域に開かれた新しい学校のあり方を発信するフォーラムを開催する。

家庭と学校と一体となって当事者意識を持った地域住民が、先達より受け継いできた地域社会での教育の特性と役割を理解し、子供たちの生き抜く力を育む運動を継続的に展開して、地域に対する自信と誇りを持ち、我々とともに「日本を支える名古屋」を実現する。

【JCフォーラム運営特別委員会方針】

特別委員長 山田 剛士

私たちが住み暮らす名古屋は、戦後復興の中で大きな発展を遂げており、その中で我々の先達も連綿と続く運動を通し責任世代としての責務を果たしてきた。しかし、現代では豊かさゆえに、潜在する諸問題への意識や市民の当事者意識は薄れている。現代を生きる我々には、先達に対する感謝の念を抱きつつ、まちの未来を築く責任世代として挑戦し続けることで、「名古屋プライド」を覚醒する市民との相互運動を展開していく使命がある。

まずは、市民意識変革運動の担い手である会員が第65年度の運動を展開する当事者意識を共有し、己の可能性を理解するために、副委員長という立場の責任と役割を理解するセミナーを開催する。そして、すべての会員が心一つに「名古屋プライド」を覚醒する運動を推進していくために、目的意識と情報共有を図る場を運営していく。さらに、WEBやメディア、行政との有機的で効果的な連携を図り、青年の運動のさらなる拡がりを実現するために、フォーラム開催前後にわたり戦略的な広報活動を展開する。また、「日本を支える名古屋」の実現に向けて、市民の意識を喚起し、行動への気運を高めるために、名古屋のまちの未来への可能性を発信し、未来志向の運動を巻き起こす機会を創出する。そして、名古屋に住まう市民と会員がまちへの帰属意識を高めるとともに自信と誇りを取り戻し、まちの未来を築いていく同志であり続けるために、人とまち、歴史と文化が融合した一体感を感じられる場を創出する。さらに、参加者にとって明るい未来を目指して行動する契機となるために、自らの可能性と輝かしい未来のあり方を発信する時機を創出する。

先達への感謝の気持ちを胸に、未来志向の行動を実践した会員と市民とが、名古屋のまちに対する自信と誇りに満ち溢れ、当事者意識が漲る「名古屋プライド」の覚醒した強い志によって、ともに未来を創っていく一歩を踏み出し「日本を支える名古屋」を実現する。

【公益経済室方針】

室長 鈴木 和貴

利益追求重視の従来の資本主義経済の下では、企業の不祥事や世界規模の経済危機が発生し、また一部の者に富が集中するなど構造的問題に起因する閉塞感が漂っている。しかし、まちに暮らすすべての人が精神的にも経済的にも豊かでなければまちは活性化しない。そこで、人やまちへの貢献を第一とする公益資本主義経済を広めるとともに、製造業を中心に世界を支える名古屋の経済が持続的に発展できるための基軸を確立する必要がある。

まずは、人や企業の意識を従来の資本主義経済から公益資本主義経済へと変革するために、日本独自の経営思想を見つめ直して、人やまちを大切に思い企業活動を通じて社会貢献し、企業活動によってもたらされた利益を社会貢献の証・期待であると捉える「日本型資本主義経済」として深化させて発信する。そして、精神的にも経済的にも豊かにまちを活性化させるために、まちの課題解決に当事者意識を持って取り組み、企業活動を通じて社会に貢献することを目的とする社会起業家の実践的な育成及び支援に取り組む。さらに、持続的に発展していくことができる名古屋の経済の目指すべき姿を企業経営者や市民が共有するために、世界を支える名古屋の経済の未来像を、名古屋の産業発展の歴史・産業構造・企業風土を踏まえて研究する。また、名古屋のまちの活性化の中心となるべき地域企業の発展のために、名古屋の伝統ある企業から新しい企業まで様々な分野の世界に誇れる企業を取り上げて、その企業活動について具体的に発信するとともに、それらの具体例を通して地域企業が取り入れることが可能な企業戦略を研究して、出版物として発信する。

社会貢献こそが経営の究極の目的であるという揺るぎない志と使命感を持った人や企業がまちに溢れ、人と企業とまちのそれぞれが思いやりの心でつながり合うとともに、人やまちのために新しい価値を創造し続ける世界に誇れる「日本を支える名古屋」を実現する。

日本型資本主義経済発信委員会方針

委員長 佐地 宏之

現在の資本主義経済は、株主の利益や国家としての発展を重視するあまり、世界規模の経済危機を招いているのみならず、社会の公器として企業が果たしてきた人間の幸福や社会の発展に対する役割と責任を損なっている。そこで、現在の構造的問題を抱えた資本主義経済から脱却し、企業が新たな価値を創造し、社会を発展させていくことで人を幸せにできる、公益資本主義経済という新たな経済の仕組みを社会に浸透させていく必要がある。

まずは、近年の世界経済の潮流に巻き込まれ、失われつつある日本独自の経営思想の意義を問い直し、人を幸せにできる経済の仕組みの核的な理念として確立するために、日本の企業風土に自律的規範や自発的使命として受け継がれてきた、日本人の根底にある価値観を抽出する。そして、地域企業が世界経済を担う重要な役割を果たす存在として発展していくために、抽出した日本人独自の価値観を新たな経営思想として体系的に再構築することで、企業活動による社会貢献を経営の本懐として導き出し、経済的利益を社会貢献の証・社会からの期待であると捉える公益志向の経済の仕組みを、日本型資本主義経済として発信するフォーラムを開催する。さらに、十分な解決策が施されていない社会問題を官民が協力して解決していくために、当事者意識溢れる高い志を持った人材を育成し、その志を持続可能なビジネスモデルとして確立できるよう、名古屋青年会議所のネットワークを利用したパートナーシップの構築など、起業に際して必要となる足がかりを提供していくことで、日本型資本主義経済を実践していく社会起業家の輩出につなげる事業を行う。

経済的利益を追求するのみならず、社会貢献こそが企業経営の本懐であることを自覚した人や企業がまちに溢れ、現在の資本主義経済のもたらした閉塞感を打破し、希望の持てるまちを創造する公益資本主義経済を発信していく、「日本を支える名古屋」を実現する。

世界を支える名古屋経済研究委員会方針

委員長 小木曾 仁

名古屋経済は、自動車産業などの製造業を中心とし国内外に向け多くの製品を生み出すことによって堅調な発展を遂げ、現在では日本有数の経済圏として世界を支えている。産業構造の変化や経済のグローバル化などにより、地域企業を取り巻く環境が変化している中で、世界を支える名古屋経済だからこそ、持続的に発展可能な経済の未来像を確立す

るとともに、地域企業が活性化するための戦略を示し世界経済をリードしていく必要がある。

まずは、名古屋経済の未来像の基軸を確立するために、名古屋経済の発展の歴史、産業構造及び名古屋経済を支えてきた地域企業の風土について調査し、合理性を追求しながらも他者を気づかい良いものを作るために妥協しない姿勢とといったものづくりの心とも言えるべき価値観が、経営思想の根底にあることを明らかにする。そして、その調査結果を踏まえ、名古屋経済のさらなる発展の契機とするために、名古屋経済の根底にある価値観に基づく次代を担う新たな産業や地域企業が目指すべき姿を研究し、世界を支える名古屋経済の未来像を発信する例会を開催する。さらに、名古屋において既存の技術や新たな視点から世界に挑戦している地域企業が、身近に多数存在することを地域企業に広め、企業経営者の意識変革をするために、その地域企業が自社の特徴や強みをいかに捉え実践しているのかを調査し、メディアを通じて発信する事業を実施する。また、世界に挑戦していく地域企業を継続的に創出していくために、調査結果を踏まえ実践している経営手法を各地域企業が、その特色に応じて活用できるように企業戦略として研究し出版物として発信する。

人やまちのために新たな価値を創造し続ける名古屋経済の未来像を地域企業が共有し、企業成長の本質について考え未来を担う革新的な発想の下、様々な視点で新たな挑戦をしていく活力ある地域企業が溢れ世界をリードし続ける「日本を支える名古屋」を実現する。

【地域連携室方針】

室長予定者 山本 一統

利己主義の蔓延やグローバル化、インターネットの普及などの影響により、企業はまちへの誇りやまちに根づいた経営をする意識が薄れつつあり、行政と連携し地域の課題解決に取り組んできた自治会や町内会などの地域コミュニティは次代の担い手が不足している。我々会員をはじめとする企業が、地域と密接に連携することにより、まちの活性化の一翼を担うとともに当事者意識を持ち実行力のある地域コミュニティを創造する必要がある。

まずは、まちを誇りに想う企業が集うまちとなるために、企業はまちの主体者として、まちのニーズを捉え地域資源を活用し、地域に根づいた経営に取り組むことで、企業とまちがともに発展していくまちと企業のあるべき姿を発信する。そして、まちと企業の未来を担う人材を育成するために、企業がまちづくりに対する当事者意識を持ち、企業の魅力や働く意義、喜びを伝えることで、子供たちへ将来の夢と希望を創造する。さらに、市民・企業がまちの主人公となるために、3000名を超える情熱と実行力を持ったオール名古屋J Cが、地域のリーダーとして地域に根差したコミュニティを創造し、各区の課題を吸い上げ、解決策を導き出していく。また、南海トラフ巨大地震をはじめとする大規模災害に備えるために、一人ひとりが危機感と当事者意識を持ち、地域によって異なる特性やプライオリティを把握し、防災直後から避難、早期復興まで、企業としての防災を会員に伝播する。そして、地域防災を戦略的に推進するために、J Cと企業、行政、地域コミュニティ、災害ボランティア団体と連携し、より実践的に機能を果たす防災計画を構築する。

知行合一を実践するJAYCEEにより、まちに対する当事者意識が漲りプライドと志を持った企業がまちに溢れ、実行力のあるコミュニティがまちづくりの中心となりまちの問題を解決する、まちと企業がともに生き活きとした「日本を支える名古屋」を実現する。

まちと企業の未来創造委員会方針

委員長 阿部 雄介

日本の企業は、バブル崩壊や世界金融危機といった経済的危機に直面し、自社をとりまくまちや人を顧みることなく、自社の利益のみを追求する経営に傾倒していった。その結果、まちと企業の共生関係は失われ、地域経済は頭打ちの状態となりつつある。そこで、企業がまちとの共生関係の有効性を発見し、各地域に眠る地域資源を発掘・活用しながら、まちと企業がともに発展していく関係を構築し、未来を創造していかなくてはならない。

まずは、企業がまちづくりの当事者として、まちや企業の未来を担っている若者に夢を与え、まちへの愛着を育むために、企業がまちと連携し、まちの魅力や働く意義・喜びを伝え、将来に向けた一歩を踏み出す礎となる事業を実施する。そして、企業がまちとの共生関係を構築するために、青少年育成事業に尽力しまちの未来を考えることは、まちからの信頼や親近感を得ることができ、優秀な人材の確保や企業間連携の強化など、自社の経営基盤を構築する一助となることを学ぶ機宜とする。さらに、まちの発展は企業の発展とつながっていることを実証するために、利益追求型の経営とまちの発展を考えた経営では、まちの未来だけでなく企業の未来にもどのような影響を及ぼすかを研究する。また、

地域の活性化に必要となる新しい価値をまちに産み出すために、全国に実在する、地域資源を発掘し活用することにより、地域活性化に成功したまちと企業を検証する。そして、まちと企業の理想的な共生関係を伝播するために、まちと企業は地域資源を活用しながらともに発展することで、地域の未来を創造していく関係であることを発信する例会を開催する。

まちづくりへの当事者意識が漲り、企業とまちとの共生関係が生まれ、地域資源を活用した経営が広まっていくことにより、地元市民の雇用や外部からの集客で地域が活性化し、まちと企業がともに発展していく関係が創造され、「日本を支える名古屋」を実現する。

地域コミュニティ創造委員会方針

委員長 尾関 良祐

地域コミュニティは、住民の信頼関係を基盤として、まちの問題や課題を解決する主役であったが、現在では、都市への人口や都市機能の集中から地域構造が変容し、生活する環境の変化から地域への依存度が低下し、責任世代が積極的にまちづくりに参画しなくなり、既存の地域共同体は衰退の一途を辿っている。行動力ある責任世代が中心となり、まちの課題解決と持続的な活性化を担う地域に根差したコミュニティを創造する必要がある。

まずは、まちに必要とされる最適な組織の形を明らかにするために、名古屋の自治組織の調査研究を行い、良い点と改善すべき点を明らかにする。そして、まちで起こる問題を解決するために、どのような地域組織の規模や構造がまちに最適で、継続的にまちの活性に関わることができるかを明確にする。さらに、オール名古屋JCが中心となり地域のためのまちづくりを市民とともに行うために、名古屋青年会議所の現役会員・特別会員を含めた3000名のJAYCEEが当事者意識漲るまちのリーダーとして、新しいJAYCEEのコミュニティの創造に参加していただく。また、我々の作る新しいコミュニティが市民と連携を図るために、名古屋青年会議所会員による新しい組織が有機的に編成され、名古屋市を網羅したコミュニティネットワークを創造し、既存の自治組織や市民とともにまちの発展に取り組み、市民とJAYCEEのつながりを創る。そして、新しいコミュニティが名古屋のまちを網羅する地域組織の主役となるために、16区のコミュニティが各々の地域の住民とともに、まちの問題解決と地域活性のあるべき形を示す事業を開催する。

当事者意識漲るリーダーとして我々が中心的に創造するまちのコミュニティが、地域の問題を解決し継続的にまちの活性に関わり、まちの市民が地縁のつながりを取り戻し、市民とJAYCEEが主導となるまちの自治を達成し、「日本を支える名古屋」を実現する。

戦略的地域防災推進委員会方針

委員長 村瀬 雄介

過去の大震災は一人でも多くの命を守るには地域の連携が欠かせないことを教えてくれたにもかかわらず、一部の防災意識の高い人のみが南海トラフ巨大地震をはじめ大災害に備えるべく活動しているのが現状である。防災活動の担い手は高齢化しており、近隣住民同士の結びつきは薄く、企業の関わりも少ない。今後の災害に備え、一人ひとりが防災意識を持ち、地域の連携を強化し、将来を見据えた戦略的な防災を推進していく必要がある。

まずは、南海トラフ巨大地震をはじめとする自然災害に備えるために、過去の巨大地震やこの地域で発災した伊勢湾台風や東海豪雨の被災者や災害支援者の生の声を聞き、実際に味わった感情や体験を体感することによって、災害時に及ぼす心理状況を把握し、地域の特性に即した防災を研究する。そして、地域防災をまちだけでなく、企業が防災意識を持って災害を最小限にとどめ、早期復興を果たすために、まちとNPOと災害ボランティア団体と連携して、災害に備えての減災・災害直後の初動対応・災害後の復興の時系列で防災を捉え、具体的な企業防災の施策をまずは青年経済人である会員に伝播する例会を開催する。さらに、これまで脈々と受け継がれてきた災害ネットワークをより強固なものにするために、16区に所在する3000名を超える誇り高きJAYCEEがリーダーとなる新しい地域コミュニティと地域に根差した災害ボランティア団体とまちと企業を連携させ、それぞれの得意分野を活かした防災活動を行う意欲的で行動力のある「名古屋防災隣組」を構築し、災害に備えて一人でも多くの命を守る地域防災を推進する事業を実施する。

目前の問題である防災対策を契機として、JAYCEEと災害ボランティア団体とまちと企業が連携した防災コミュニティが機能し、地域の様々な問題を解決していき、地域が一丸となって人の命を守っていく、共助の精神溢れる「日本を支える名古屋」を実現する。

【「志」 確立室方針】

室長 中林 良太

高度経済成長により社会が物質的には満たされる一方で、利己主義の風潮が強まり、市民が本来は自分事として取り組むべき己の住み暮らす地域や社会の問題に対し無関心となりつつある。市民が利他の精神の下、まちの問題解決に関わる当事者意識を次代に継承するには、市民及び会員が自ら先頭に立ち行動を踏み出せない市民の意識を変革し、ともに名古屋のまちの未来を創り上げるムーブメントを巻き起こす「志」を確立する必要がある。

まずは、一人ひとりの市民が、知行合一の精神の下に、知識を知恵に変え自信と誇りを持って未来を変革するに足る行動力を生み出すために、知識を行動につなげる原動力である知性を磨き、己の住み暮らすまちや社会の課題に対し自主的に解決を目指す価値観を構築するフォーラムを開催する。そして、会員が知行合一の精神を発揮して、名古屋のまちを進化させるべく行動するために、常に己を誰かのために役立てようと意識し、プライドを抱いて自らのリーダーシップを高め、市民の先頭に立ち市民を巻き込み行動する「志」を確立させる例会を開催する。さらに、次代のまちの担い手である子供に道徳心や郷土愛及び将来への向上心を身に付けさせるために、現在の責任世代である市民が親学を学び、家族というコミュニティの中で、親が子供に愛情を注ぎともに成長する重要性を発信するフォーラムを開催する。また、まちの未来を担う子供に社会性と生き様を示す親学の役割を会員に浸透させ、会員の親学に対する考えを深めて各自の家庭で活かすために、親が子供に対し家庭の中で信頼関係を持ち社会性や生き様を示す方法を実践する例会を開催する。

知行合一の精神を身に付け責任世代の使命を自覚する市民と会員がともにまちの未来の創造に向けて行動に踏み出し、リーダーシップを発揮して他の市民の意識変革を加速させ名古屋のまちを進化させる無限の行動力を生み出し、「日本を支える名古屋」を実現する。

知行合一実践委員会方針

委員長 赤林 竜弘

戦後の物質的豊かさが社会全体に浸透した時代においては、多くの市民は自身の豊かな生活に満足し、自らのまちの問題に無関心となったが、バブル経済崩壊後、経済の停滞により社会全体に閉塞感が漂い、自らの行動で打開しなければならなくなった。まちとともに生き抜く力を市民が身に付けるには、自らの知識を知恵に変えて行動するという知行合一の精神の下、まちの未来の創造に向けて当事者意識を持って一步を踏み出す必要がある。

まずは、会員が市民の先頭に立って行動し、市民を巻き込んでともにまちの問題に取り組む「志」を確立するために、社会問題の解決に向けて考え、行動し続けた人物から、その活動を支えた情熱と活動することにより得られた成長や周囲に与えた変化についてお話いただき、社会に対して当事者意識を持って一步を踏み出すことの重要性を会員に伝播する例会を開催する。そして、会員が互いに切磋琢磨し、名古屋のまちをリードしていくために、例会内で会員が議論する場を設け、会員の社会問題に対する想いを会場で共有する。さらに、社会のあり方に関心を持つことによる具体的メリットについて考察し、市民が社会に対して主体的に行動するよう意識変革を促すために、知識を知恵に変える「知性」を磨くことにより、自信と誇りに裏打ちされた行動を実践できることを発信するフォーラムを開催する。また、市民に対して当事者意識を持った積極的な行動を促すために、「知性」を磨き、行動し成果を収めている個人・団体を讃え紹介し、勇気を持ってまちの課題解決に一步を踏み出すことが市民の意識を変革し、社会に希望を生み出すことを発信する。

当事者意識を持ち、知行合一の精神を身に付け行動する市民と会員一人ひとりが、互いに切磋琢磨しながら連携してまちの問題に真摯に向き合い、さらに多くの市民を巻き込んで、まちの未来を創造するムーブメントを巻き起こし「日本を支える名古屋」を実現する。

真の親学研究委員会方針

委員長 細川 雅也

現代において、子を持つ家庭には人生の先達たる年配者が少なくなり、地域社会とのつながりも希薄化したため、子供が家庭や地域の中で育まれる機会も減り、子供に道徳心などの社会性を学ばせる風潮も弱くなった。子供は親や周囲の大人を見て育つものであり、我々はあるべき親の姿と役割を考え自らを省みつつ、次代を担う子供たちに対し時代を

超えても変わらない親のあり方を示し、信頼関係で結ばれた親子関係を構築する必要がある。

まずは、真の親学とは何かを学ぶために、自分が育った過程において、一生懸命に私たちを育ててくれた親や厳しく叱ってくれた周囲の大人の姿を各自が見つめ直し、子供に社会性を身に付けさせることや、親のあり方・子育ての楽しさなどについて、委員会にて調査・研究し、議論する。そして、時代や社会背景が移り変わったとしても親が子供の育みに対する責任を持つことを示すために、委員会での議論を踏まえ、家庭においていつの時代も変わらない子供の社会性を育むという親の責任を市民に発信するフォーラムを実施する。さらに、会員に次代を担う子供たちに社会性と生き様を示すという親学の実践の仕方を伝達するために、実際に生じている親や子供の抱える悩みやニーズを掘り起こして解決のヒントを探り、親子間の真の信頼関係を構築するプロセスを委員会において確立する。また、親学の本質的部分を伝えていくために、会員と会員の家族を交えながら、親子関係を軸としたコミュニケーションの中で子供は親の背中を見て成長することを体感してもらうことで、そのまま家庭において活かすことのできる真の親学を実践する例会を開催する。

会員と市民とがともに真の親学を実践し、子供たちが家庭の中で親との触れ合いを通じて道徳心などの社会性を身に付けながら成長し、次なる責任世代としてまちの未来を創造する志を伝播し、他者に対する愛情と思いやり溢れる「日本を支える名古屋」を実現する。

【人材育成室方針】

室長 風岡 一城

高度な情報化により直接的な人とのつながりが薄れ、利己主義が横行する現代において、行政任せ・他人任せといった我々の当事者意識の欠如が、未来の社会のあり方に対しても無関心な人間を生み出す原因になっている。一人ひとりが社会の一員であることを再認識するとともに、人やまちへの優しさと心身のたくましさを持つ子供や若者を育む健全な環境づくりを通じて、活力溢れる次代のリーダーとなる人材の育成を推進する必要がある。

まずは、目標に向かって突き進む会員の活力を生み出すために、胸襟を開いて語り合える場を提供し異なる価値観に触れることで、互いを高め合える人間関係を築く例会を開催する。そして、若者が人生に明確な目標を見出すために、先達の切り拓いた道を体感することで、夢を叶えるための主体性を促進させる事業を実施する。さらに、人やまちを明るい未来へと導く地域のリーダーを輩出するために、有能な人材を地元から発掘し、活動の源となる高い志と情熱を世に知らしめることにより、人を惹きつけ心を動かす力を市民に伝播していく。また、自立した市民の運動をより活性化していくために、リーダーたちが集い豊かな知識と夢を共有することで、まちや国を形づくる一人の人間としての存在意義を探究する事業を実施する。そして、名古屋市全域の子供たちに目標を達成する喜びと感動を与えるために、地域ぐるみの伝統的体育行事を通じ、忍耐と努力の先にある強い精神力を養う事業を展開する。さらに、青少年の友情と絆を醸成するために、市民参加型の新しいスポーツを考案し、信頼関係と思いやりのムーブメントを巻き起こす事業を実施する。

次代を担う子供や若者たちが地域連携により心身の成長を遂げ、果敢に挑戦する気概と勇気を携えた人間として青年会議所会員とともに目標へと突き進んでいく当事者意識漲るリーダーシップを発揮し、明るい未来への道標となる「日本を支える名古屋」を実現する。

活力溢れる若者育成委員会方針

委員長 高木 秀典

急速な情報技術の発展や経済のグローバル化による競争激化、少子高齢化の進展による人口減少や労働力不足への懸念などにより、我が国を取り巻く環境は大きく変化し、将来に対する不安から社会全体に重苦しさをもたらしている。このような閉塞状況の打破が求められている世の中だからこそ、変化に対応するだけでなく、チャレンジ精神を持って変化を生み出し、明るい未来を創造することができる活力溢れる若者を育成する必要がある。

まずは、名古屋の未来を担う若者が、力強く自分自身の人生を切り拓いていくために、自分たちの経験や培ってきた知識や技術を伝える場を自ら運営することにより、前向きにチャレンジすることの大切さを体感する。そして、若者の意欲的な行動を促すために、自分の姿を重ね合わせることでできる人生の先輩から自己成長に向けて悩みや壁を打ち破ってきた実体験やチャレンジを通して築いた現在の話を聞くことにより、若者が自分自身の可能性を信じ、具体的な目標に向けて行動する勇気を持つ事業を実施する。さらに、青年会議所会員が未来に対して夢や目標を描き、より前向きに青年会議所運動を行うために、社会的に評価が高く精神的にも満たされた先達や青年会議所の先輩のビジョンや信念

に則った度重なる決断に触れることにより、思いや生き方への憧れを抱くとともに、社会的使命感を育む機会とする。また、青年会議所会員が自らのキャパシティを決めつけることなく大きな一歩を踏み出すために、周りに支えられていることを再認識することにより、感謝の気持ちを覚悟に変え、目標に向けて突き進む気概を持つことができる例会を開催する。

自分自身の確固たるビジョンや信念に基づき、夢や目標に向かって最後までやり遂げようとする強い意識や行動力を持つ青年会議所会員や若者が、互いの絆を深め合い、好奇心や向上心を持ってチャレンジし続ける活力溢れるまち「日本を支える名古屋」を実現する。

地域リーダー発掘委員会方針

委員長 三宅 貴史

若者の投票率低迷に見られるように自分の住まうまちに対してすら関心が低く、地域の問題に対し他人任せとするような「公」のために当事者意識を持って行動できない市民が増加している。社会貢献活動を行っている我々会員や市民の存在は事実であるものの、その認知度は低く、その熱意は燻り続けている。確固たる信念を持った会員と市民の存在を世に知らしめ、一人でも多くの魅力溢れる地域リーダーを創出していくことが必要である。

まずは、市民を明るい未来へと率先して導くことができる人材を見つけ出すために、会員のネットワークや様々な情報を活用し、認知度は低いものの確固たる信念を持ち活動する人物を探索する。そして、地域の人や事柄といった「公」のために積極果敢に挑戦する人物の存在を市民に知らしめるために、活動の経緯や源となる志を発表するステージを設け広く発信することにより市民自らも社会運動への第一歩を踏み出す勇気を与える。さらに、効率的かつ効果的にさらに多くの市民の意識を変革するために、メディアを活用して人を惹きつける魅力ある人物の姿や思いを伝播していくことで、より多くの市民の心に火を点ける運動を展開していく。また、独自の社会貢献活動を続けてきたリーダーたちの活動が、さらに発信力を高めより多くの人々の意識を変革していくために、明るい未来へのビジョンを持ち寄り実現に向けて話し合うことで新たな取り組みを見出し、真の地域リーダーへ成長する機会を作る。そして、青年会議所活動に対し真摯に向き合い成果を収めた会員や運動を称賛するために、LOM内褒賞を実施して会員の自信と誇りを醸成していく。

世のため人のために積極果敢に挑戦する地域のリーダーが生き生きと活躍し、その熱き志によって人々の心に火を点け、まちの様々な問題に当事者意識を持って「公」のために能動的に活動できる市民で溢れるまちへと進化した、「日本を支える名古屋」を実現する。

子供の未来創造委員会方針

委員長 林 稚人

人と人との関わりが希薄になっている現代、子供が成長する過程で学ぶべき仲間を思いやる心や、利他の精神に代表される日本の心を、正しく伝える機会が少ない現状がある。未来の日本を担う大切な宝である子供たちが、仲間を大切に友誼を育み、自分一人だけでは感じられない達成感や、喜びを体感することを通じて、心身ともに成長していきける環境を、家庭・学校・地域社会の大人と会員が当事者意識を持って創り上げる必要がある。

まずは、市民と会員とが一体となり、地域ぐるみで子供を育てる環境を創り上げるために、地域の大人が当事者意識を持って事業に携わり、わんぱく相撲を市内各区で開催するための人間関係を構築することによって、家庭・学校・地域社会の大人たちと会員の連携体制を確立する。そして、未来を担う日本人としての健全な心身を持った子供たちを育成するために、日本の国技である相撲の礼儀作法と勝負による厳しさを通じて、感謝の姿勢の大切さや目標に向かって挑戦する意義を教え、日本の長い歴史に受け継がれてきている和の心を伝える事業を実施する。さらに、子供の主体的な行動力の源となる心と体を養うために、一步一步上達していく嬉しさや、体を動かし競い合う楽しさを伝えることができる、名古屋発祥の新しい青少年スポーツ事業を市民とともに考案する。また、子供たちが未来の自分の姿と理想のまちのあり方を描き成長するために、地域に根差した新しいスポーツの形を確立し、名古屋から日本全国に発信するスポーツムーブメントを巻き起こすことで、青少年を中心とした地域社会すべての人々が、元気で笑顔になれる事業を実施する。

市民と会員の手によって創造された、子供たちを伸び伸びと育てる環境の中で、自らの未来を切り拓く力強い精神と身体を育んだ子供たちが成長し、人を思いやる優しさを持つことのできる社会のあり方を未来へ連綿とつなげていく「日本を支える名古屋」を実現する。

【総務室方針】

室長 梅村 総

名古屋青年会議所がまちの未来を創造する市民意識変革団体であり続け、人の心を動かす運動を効果的に展開し、社会に最大限の貢献をしていくには、会員一人ひとりの力を最大限に引き出し、自信と誇りを持って本来の「JCらしさ」を発揮していかなければならない。我々は、組織の運営を点検し、確固たる運営の基盤を築き、伝統を大事にしながらも、時代に適合した組織のあり方を模索し、組織の要として進化し続けていく必要がある。

まずは、100人の一歩を実現し得る実行力のある運動を実現させるために、総務と財務の面から、自信と誇りを持って、すべての事業・例会を支援する。そして、会員から預かった大切な資金を、効果的かつ透明性と公益性を持って運営するために、公益社団法人格を維持していくとともに、財務面から清く正しく思いやりのある助言を行う。さらに、効率的で効果的かつ本質を突いた議論が活発に行われるために、総会及び諸会議をプライドとあたたかさを持って運営をする。また、歴史を重んじながら、堅実な運営の基盤を築くために、先達から脈々と引き継がれてきた定款諸規程や基本資料の管理・運用を行う。そして、全会員がJAYCEEであることに誇りを持ち、足並みを揃えて心一つにし、対外からの理解と共感を得て、運動の推進力とするために、第65年度の運動方針を発信する新年賀詞交歓会を開催して、覚醒の始まりを内外へ凛々しく発信する。さらに、名古屋青年会議所が単年度制の枠組みを超えて名古屋のまちを進化させ、我々が住まう日本を支えていくために、中長期的なプランである「日本を支える名古屋ビジョン」を策定する。

先達から連綿と受け継がれてきた歴史に感謝と誇りを持って、伝統を重んじながらも、果敢に新しい変化を取り入れることに挑戦し、JAYCEEとしてのプライドを持ち、覚醒した会員一人ひとりが最大の運動発信に寄与して、「日本を支える名古屋」を実現する。

財務委員会方針

委員長 鈴木 直明

名古屋青年会議所は、これからも名古屋のまちや人の明るい未来につながる市民意識変革運動をリードして、社会への確たる貢献を継続しなければならない。我々は、会員一人ひとりが、己とまちや国への自信と誇りを自覚し、持てる力を最大限に発揮して、市民の心を捉える運動を永続的に実践できるように、堅実な財務運営をするとともに、伝統を継承しながら能動的に新たな変化を模索し、組織の要としての進化を遂げていく必要がある。

まずは、すべての事業及び例会が、適正に予算執行され、無上の成功を収めるために、実直に予算の作成を援助する。そして、透明性と公益性を保ちつつ青年会議所としての変わらない本質を疎かにしない組織とするために、公益目的事業比率を保持しながらも名古屋青年会議所らしい最大限の運動の発信を目指して、公益社団法人格を維持し運営する。さらに、未来に渡って名古屋のまちや人の理想の姿を捉え、継続的に名古屋のまちや人が進化を続けて日本を支えていくために、中長期プランである「日本を支える名古屋ビジョン」を策定する。また、会員から託された大切な資金による合理的な組織運営を実施するために、適切かつ明朗な収支予算案の作成に向けて献身的に立案補佐を行い、決算をする。そして、効率的で効果的かつ本質を突いた活発な議論によって、会員一人ひとりのアイデアが確かな知恵へと発展するために、新たな進化としての議案審査会議を加えた諸会議を、真摯かつ厳粛に運営及びその援助をする。さらに、名古屋青年会議所の伝統を尊重しながら組織運営の基礎を確実にするために、諸会議議案書・基本資料・資金の管理をする。

変化を取り入れながらも盤石な組織の運営基盤が確立され、JAYCEEとしてのプライド溢れる会員一人ひとりが無限のパワーを発揮して、名古屋のまちや人の未来を創造する運動となり、継続的かつ最大限の発信がなされて、「日本を支える名古屋」を実現する。

総務委員会方針

委員長 武田 裕規

我々JAYCEEは一人ひとり志を同じくして、まちや市民の心を動かす運動を発信し続けることが必要であり、青年会議所のポテンシャルを十二分に引き出すことが求められている。会員一人ひとりが青年会議所活動の担い手であることを自覚し、気概と誇りを持つとともに、市民意識を変革する運動を支えられる盤石な運営を合理的かつ確実に、

組織が効率よく機能し成果を出すことができる環境を整備し続けていくことが肝要である。

まずは、会員の知識やアイデアという英知を集結した闊達な議論を運動の目的実現に確かにつなげるために、利便化された手法を用いてスマートな議論の進行を可能にして、青年らしい端正な諸会議運営に努める。そして、しっかりとした運営の基礎を築くために、先達より受け継いできた定款諸規程や基本資料を確実に管理・運用する。さらに、会員の気持ちを一つにまとめて全員一致での運動に取り組む勇気を高めつつ対外の共感を得て協力体制を構築するために、名古屋青年会議所会員として誇るべき第65年度の運動方針を凛々しく発信する新年賀詞交歓会を開催する。また、組織をスムーズに機能させ会員に運動へ集中してもらうために、青年会議所活動に必要な不可欠な事務局の運営や文書の管理を行い、縁の下の力持ちとしての支援をしていく。そして、会員の情熱のこもった全運動が最大限の成果を上げられるために、諸会議の効果的な議論のベースとなる議案審査会議を行い、運動の源となるすべての議案に思いやりを持って向き合うことで、青年会議所という末広がり組織の扇の要としてきめ細やかな確認と助言を全運動に対して実行していく。

堅実ながらも新しく柔軟な組織の基礎を築き、会員の規範としての自覚とプライドを持って当たる運営が運動を下支えし、会員一人ひとりが志をともにして100人の一步を実現し、当事者意識が漲る芯の通った運動を展開して、「日本を支える名古屋」を創造する。

【JAYCEEプライド活性特別委員会方針】

特別委員長 白村 陽秀

名古屋青年会議所が、先達より受け継がれる利他溢れる運動を、次代へとさらに進化させて力強く継承していくには、会員が自らに限界を決めず、青臭くも泥臭く未来を見据えた運動を展開し続けることが大切である。また、巷にて聞こえてくるネガティブキャンペーンに対し自らの哲学と論陣を張り、己を律し、情熱とプライドを掲げ、目的に対してぶれない信念を持ち、絆の固い運動を展開する誇りある団体へと昇華することが必要である。

まずは、青年会議所運動の価値を会員に再認識させ、一人ひとりのJAYCEEプライドを活性化するために、青年会議所の成り立ちと運動の本質を先達の歩みを用いて伝え、名古屋青年会議所が誇る情熱とプライド溢れるJAYCEEより、次代を担う青年としてのあるべき姿を学ぶ。そして、100人の一步を確立するために、責任世代としての自覚と覚悟を喚起することによって、会員同士が今日に至るまでの自らの尊厳を見つめ直し、活動の目的について真剣に考え、今後どのような活動を志すべきか、どのように青年会議所と関わるべきかを見出し、自らのプライドを源とした志を互いに宣言し合い、運動への一步を踏み出す契機となる例会を開催する。さらに、名古屋青年会議所が、運動をより良く進化させ次代へと紡いでいく誇りある団体となるために、先達への感謝と未来への挑戦を掲げ、創始の想いを元に名古屋プライドアカデミーを開校し、未来志向を持つ人材育成を基盤とした新たな運動に果敢に挑戦することで、会員同士の絆を高め合いプライド宣言を蒐集し、知行合一を兼ね備えた情熱とプライドに満ちた会員を創出する事業を実施する。

覚醒されたJAYCEEプライドは、無限の運動を生み出す志を確立させ、100人の一步を実現し、当事者意識漲る運動を幾重にも起こす次代への道標となり、時代が変わろうと色あせることのない誇りある団体へと昇華させ、「日本を支える名古屋」を実現する。